

平成29年度 校区外部評価 学校評価表（最終まとめ）

学校名 品川区立 立会小学校

【学校評価表の作成および評価に当たっての留意事項】

○各学校では、それぞれの項目ごとに「本校の基本的な考え方」を記入してください。
各学校で評価指標を設定してください。その際は、各学校の重点的な取組と関連させて評価指標を設定をしてください。なお、必要に応じて行を増やしていただいてもかまいません。

○校区外部評価委員による外部評価委員会が開催される前に、学校は、自己評価結果（取り組みの状況や変化等）について、必ず説明をしてください。（校区外部評価委員は、その説明と実際に自分が見た学校の状況等により、評価します。）

【校区外部評価委員の皆様へ】

☆評価をする際には、実際に授業等を見た内容だけでなく、学校が説明した内容、聞き取った内容も十分に参考にしてください。従いまして、評価のために必要と思われる情報や資料につきましては、遠慮なく学校に御請求くださいますようお願いいたします。

評価項目 1 基礎学力の定着

本校の基本的な考え方		①学習スタンダードをさらに定着させ、全ての学級における学習規律の徹底を図る。 ②自ら学ぶ意欲、思考力・判断力、表現力を育てる。 ③テスト等の評価を適切に行い、その後の指導に生かすことで基礎学力の定着を図る。 ④家庭と連携しながら、基礎基本の学力を確実に定着させる。			
		上段：成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価
評価指標	下段：取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	学習規律が徹底され、学習スタンダードの達成率が80%を超えている。	A 35% B 57% C 4% D 4%	・児童の中でも共通理解ができている。 ・学年間でスタンダードについて、共通理解し指導している。 ・学習スタンダードの徹底がなされていない。 ・高学年ほど、達成率が悪い。職員間にも指導の差が生じている。学期に1回確認する必要がある。	厳しい自己評価が見られる。それを生かして、教員による指導の差が無いように、さらに努力してほしい。	児童の実態に応じて、常に教職員が課題意識をもち、自分たちの学校をよくするためのスタンダードとして見直していく必要がある。教員が課題改善のために作り出したスタンダードはどの教員も徹底して指導を継続する。
	立会スタンダードの定着を図るために、学年・専科経営案にその方策を示し、学期末に達成調査をする。	A 9% B 65% C 22% D 4%	・概ね守られている。守られていない児童5%ほど。 ・スタンダード以外の持ち物を持ってきている児童が高学年に多い。 ・スタンダードありきでなく、学校生活を良く考えた上で、納得して指導する時期にきているのではないかと。		
②	教材の選択や課題の提示方法を工夫する。100ます計算は年10回以上、100ます作文は年30回以上、実施する。	A 57% B 43% C 0% D 0%	・100ます作文は、定期的に行っている。時間内に最後まで書ける児童が増えた。 ・100ます作文は取り組んでいる。取組によって児童の伸びが認められる。 ・100ます作文は、よく取り組んでいる。 ・2学期から100ます作文に取り組んだため、30回に届かなかった。35回を目標にする。 ・全校で徹底して取り組むべきである。	教師の日常の努力が、自己評価に表れている。学校全体として継続的に取り組んでいることにより、児童の「書く力」が確実に付いている。	100ます作文の取組により、児童の思考力、判断力、表現力は確実に伸びている。 学期ごとに100ます作文の取組回数を学力向上委員会が調査し、学校全体で必ず年30回以上行うことを徹底する。
	年間指導計画に、思考力・判断力を育てる授業を計画的に位置づける。100ます作文、100ます計算に重点的に取り組む。	A 35% B 61% C 4% D 0%			
③	家庭学習の習慣化を調査し、定着率80%以上を目指す。	A 52% B 48% C 0% D 0%	・低学年も良く家庭学習に取り組んでいる。 ・ご家庭の協力もあり、ほとんどの児童が宿題をやっている。 ・学年でそろえて宿題を出すようにしている。 ・毎日3点宿題を出して、チェックしている。塾と両立できない児童がいるので、指導が必要である。 ・宿題を提出しない児童3%ほどいる。家庭の状況により家庭学習の取組に差がある。学習を補充するために学校で取組ませたいが、時間の確保が難しい。	日常の教師の努力の成果を認める。スタンダードとして日々の積み重ねを大切にしていることが、教師の指導力の向上にも結び付いている。	児童、保護者、教師が、日々の積み重ねを当たり前に取り組んでいく。宿題には、必ず教師が目を通して、適切な指導を入れることにより、習慣化を図る。
	宿題スタンダードに基づき、家庭学習(低30分・中40～50分・高60分)に取り組ませる。	A 39% B 57% C 4% D 0%			
④	区・都・国の学力調査において、すべての教科の結果が、区・都・国の平均正答率を超えている。	A 74% B 26% C 0% D 0%	・高学年は、分析結果をもとに、週1回のステップアップ学習により、底上げの時間を取る。 ・学力テストの結果をもとに、対策プリントなどがつくられ、実施されている。(区学力定着調査) ・学力調査の結果は良い。学力テストの分析は役立ちます。	学力テストの結果を俊敏に考察し、各学年が課題を明確にして改善策を表明していることが、次の手だてとなっている。つまづき部分に立ち戻り、基礎学力の定着を図っている。	基礎学力向上委員会が中心となり、学力向上の対策に取り組むとともに、学力テストの結果を各学年が考察する。考察と改善策を全体協議の場で表明して、基礎学力の定着を徹底的に図る。
	基礎学力向上委員会の計画に基づき、校内学力テストを年2回実施し、結果の分析から日々の指導に活かす。	A 74% B 26% C 0% D 0%	・分析をもとにして、立会の時間に取り組むことができた。 ・学力テストの結果を児童に返却し、間違いは正しくさせるべき。 ・学力テストの結果を児童に返却し、間違いは正しくさせるべき。 ・学年で分析し、指導漏れのないようにしている。		

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目2 社会性・人間性の育成

評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	教務主任が月毎、学期毎に実施時数を確認する。市民科担当教師は年間指導計画の進捗状況を学期毎に確認する。	A 13% B 74% C 13% D 0%	・行事が多く、市民科の教科書を使つての授業がなかなかできない。 ・計画的に実施しているが、できないところもあった。 ・学期ごとに確認している。 ・カリキュラム実施調査により、今年度から確認を始められた。	昨年度の自己評価が、教員の意識の向上の成果として表れている。教科書を使つて、各学年が市民科の授業をきちんと進めることが、豊かな人間性を培うために大切である。	1年～6年生まで市民科の内容を、しっかり身に付けさせ将来にわたって生きていく力を育む。各学年の指導内容は、必ず指導する。市民科の授業について教師が互いに学び合ったり、地域に公開したりする機会を設定する。
	学校は、市民科の授業を計画的に実施する。	A 39% B 52% C 9% D 0%			
②	学校公開時等の保護者アンケートであいさつについて肯定的な結果が90%以上得られることを目標とする。	A 44% B 52% C 4% D 0%	・挨拶は課題。 ・委員会等で児童が呼びかけている。高学年がより進んで挨拶をしていく学校にしたい。 ・自分から挨拶する子も多い。挨拶をしない子は限られている。家庭と連携して習慣を身に付けさせたい。	保護者の厳しい評価に基づき、さらなる努力をされることを望む。挨拶については、家庭のしつけや習慣によるところも大きく、学校だけで徹底することは難しい。	教職員はつねにすすんであいさつや声かけをしている。これまでの取組を継続しつつ、学校、地域、保護者が連携して意識的に取り組んでいく。
	教師は、あいさつや礼儀、場に応じた行動など、しつけるべきことを具体的に指導する。	A 22% B 31% C 43% D 4%	・挨拶は年々増えてきているが、まだ保護者アンケートでは肯定的な結果でない人もいる。		
③	児童は、静かに集合や整列ができ、日常の学校生活において規律ある行動が確実に(100%)できる。	A 44% B 48% C 4% D 4%	・スタンダードにあるかではなく、礼儀こそ確実に教えるべき。 ・少なくとも、学年で統一した指導は意識して行っている。 ・スタンダードをもとに指導しているが、身に付かない児童もいる。	C評価44%が気になる。その内容を、教師が明確にして、統一した指導ができることを望む。	集団行動の徹底は、円滑な学級経営にある。日常の児童の実態を観察、把握して適切な指導と声かけを繰り返す。学校全体で取り組んでいることを教師が意識して共通理解の下で指導する。
	「生活スタンダードに基づき、統一した指導を行うことで定着する」という共通の意識をもち、ぶれがない指導を行う。	A 4% B 48% C 44% D 4%	・集団としてのきまりを理解し、守ろうとしている。 ・今後も繰り返し、集合、整列の意味を伝え、実践できるようにしたい。 ・教師と児童の信頼関係があって、はじめて統一した指導ができる。		
④	体験活動実施後のまとめや感想に、体験活動を通して考えたこと、疑問に思ったこと、新たな疑問等を全員が表現できるようにする。	A 57% B 43% C 0% D 0%	・豊かな体験活動に児童は満足している。教員の負担はあるが、本物に触れる体験は良い。 ・学級会など、クラスのことを考える機会を多くもった。 ・減少しつつあるが、充実している。 ・体験活動をたくさん取り入れている。 ・気付いたこと、わかったことをまとめている。	体験活動の成果は十分に認められる。	豊かな体験は豊かな人間形成につながる。様々な場面で、学校では見られない児童の成長の様子がえられる。また、各教科との横断的な学習により、学力向上の相乗効果もある。教育的効果を考え、体験的活動を年間指導計画に入れる。
	各学年に応じた社会体験活動や自然体験活動を通して、豊かな社会性と人間性を育む教育活動を重視する。	A 30% B 70% C 0% D 0%			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目3 保護者・地域との連携

本校の基本的な考え方		◇保護者・地域の授業協力者とともに授業する機会(英語、伝統文化、昔遊び、地域探検、地域清掃等)を積極的に設け、その方々の力を学校教育力の向上や、多様な学習活動の実施につなげていく。 ◇保護者からの相談や苦情に対しては即日返事を返し、少なくとも3日以内に学校としての対策を説明する。 ◇学校の情報を地域に広く提供し、学校公開はもちろん、通年学校公開を原則とし年14回の土曜授業を行う。 ◇学校だより、掲示板、HP、ツイッター等を通して校内の情報を発信する。 ◇教職員は防犯、地震、火事等に対して、その予防に全力を挙げて取り組み、常に危機意識を高くもって勤務する。特に地域とともにこの地域を守る防災意識を高くもち、防災訓練には区内在住教員も積極的に参加する。			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	保護者アンケートにおいて、「学校は情報を発信している」項目を80%以上にする。	A 65% B 31% C 0% D 4%	・HP、掲示板ともに、行事後すぐに更新している。	学校の情報発信力は、上がっている。努力の成果が表れている。	学校の様子の広報は、事後3日以内に更新することを継続する。ホームページ上には、保護者や地域に必要な情報を載せ、常に更新する。
	学校だよりは月1回に配布、ホームページは1週間に1回、ツイッターは毎日更新を目指す。	A 39% B 57% C 0% D 4%			
②	保護者アンケートで「学校の教育活動がわかり、積極的に参加している」を70%以上にする。	A 48% B 52% C 0% D 0%	・ボランティアを呼びかけると、とても協力的な保護者が多い。 ・行事ごとに、PTAやボランティアの力を借りて、スムーズに進行している。助かっている。 ・福刈り体験、マラソン大会、茶道体験、金時山登山で多くの方にお世話になった。	教師の日常の努力が、保護者との連携に結び付いている。保護者とのコミュニケーションや連携は、児童理解や教育活動に大変重要である。	学校行事での保護者との連携は、児童を共に育てていくために重要である。今後はコミュニティースクールとして様々な機会に参観やボランティアを呼び掛け、協力関係を大切にしていく。
	積極的にボランティアを呼び掛け、保護者の力を生かして教育を進めている。	A 44% B 52% C 0% D 4%	・金管の保護者を始めとして、多くの方のご協力をいただいた。		
③	保護者アンケートで「学校は地域等と連携している」を70%以上にする。	A 48% B 48% C 0% D 4%	・地域のスポーツ鬼ごこのチームを組み、練習をして参加した。 ・本校を避難所とする町会と連携して、全保護者・児童参加型の区内一斉防災訓練を実施した。 ・アンケートで肯定的な意見が少ない気がする。地域行事は休日実施が多いため、認識されていないこともある。	学校の所属する地域町会連合とPTAの地域ブロックの区割りが違うため、2ブロックが地域となっている。教師は、よく地域行事に参加している。しかし、実態は教師のボランティア意識に支えられている以上、参加を強要し本務に支障が出ることがないように、十分に配慮されたい。	児童理解のために地域とのかわりが必要である。地域での児童の様子から、学校では見られない児童の側面を知ることできる。相互に協力し合い、よりよい関係を築く。
	地域の行事(祭礼・スポーツ活動・防災等)に積極的にに関わり、児童と地域の連携を高めている。	A 30% B 57% C 4% D 9%			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

評価項目4 環境整備・美化

本校の基本的な考え方		◇児童の安心・安全を最優先に考え、質の高い学習環境づくりに取り組む。 ①児童に身に付けさせたい言葉や知識を校内掲示や展示物に取り入れる。 ②節電に対する意識を高め、環境に配慮したり震災復興に対する社会貢献したりする態度を育てる。 ③児童が学習しやすい環境づくりに心がけ、教職員と児童が一体となって校内美化に努める。 ④愛校心を育てる環境づくりに取り組む。			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	環境不備による事故ゼロ。食物アレルギー事故ゼロ。	A 83% B 13% C 4% D 0%	・学年内で再度確認して事故を防ぐことができた。 ・アレルギー確認のための黒板もあり、事故は起きていない。 ・アレルギー対応は徹底した複数チェックにより、未然に防止できている。	自己評価においても、意識の高さがうかがえる。今後も、危機意識をもち、安全管理を徹底していただきたい。	事故防止に向け、複数チェック体制を確立している。危機管理意識の向上に向け、ヒヤリハットの事例の共有、事故防止の対応策を周知徹底する。
	安全点検や安全指導を毎月計画的に実施し、児童の安全に配慮する。食物アレルギーに対する確認は毎日実施する。	A 74% B 22% C 4% D 0%			
②	保護者アンケート、児童アンケートにおいて、学校の清潔感を肯定的な答えを80%以上にする。	A 61% B 39% C 0% D 0%	・学年間でそろえてできている。引き続きこれで良いと思う。 ・廊下の掲示は、児童の学習の成果などが貼られており、更新されている。	自己評価において、意識的に取り組んでいることがわかる。児童の学習の成果が表れている。	校内掲示担当が掲示計画案を作成し、校内掲示板を有効活用する。教室内の掲示の統一化を図り、教育環境の整備をする。
	校内環境整備を各学期が始まる前に実施し、教育環境を確実に整備する。教室廊下掲示は、月1回以上更新する。	A 39% B 48% C 4% D 9%			
③	児童アンケートにおいて、行事ごとの校歌斉唱をしっかりと歌うという答えを100%にする。	A 61% B 39% C 0% D 0%	・校旗は当番、校歌は音楽専科より指導をいただいている。 ・校歌指導はとても素晴らしいと思う。 ・学校史指導は、開校記念日前に行ったが、学校史を日常的に感じられるような場もあるとよい。	自己評価において、成果と課題が出ています。校歌をしっかりと歌う児童が育っている。	校歌をしっかりと歌えることを児童も教師も誇りに思い、指導を継続する。学校史の指導については、開校記念日前に指導することを指導計画の中に位置付け、学校史の

校旗を掲げたり、校歌指導や学校の歴史指導を行ったりすることを通して、愛校心を育てる。	A 43% B 48% C 0% D 9%		計画の中に位置付け、子供や地域を大切に思う児童を育成する。
--	--------------------------------	--	-------------------------------

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目5 いじめ防止に関する取組

<p>本校の基本的な考え方</p> <p>①管理職が先頭に立ち、人権侵害行為に対する学校としての断固たる姿勢を児童に伝え、指導にあたる。 ②全教職員で日常の教育活動を通じ、教師と児童・児童間の好ましい人間関係を醸造するために、毎月の生活アンケートをもとに面接を実施する。 ③市民科「人間関係形成領域」「自己管理領域」を柱に教育計画を見直し、児童の実態に即した指導を徹底する。 ④保護者・地域と同じ目線・同じ意識・同じ気持ちで児童の指導にあたるよう、積極的に啓発し、情報を共有化することで問題行動を未然防止を図る。 ⑤立命小学校いじめ相談室(平成26年制定)を形骸化することなく、児童の活動を通して浸透させる。</p>		<p>①単に「いじめ」がある「ない」という考え方をするのではなく、問題とされる行動が、人権侵害行為ではないか、という認識をもち、問題の未然防止に努める。</p>			
		<p>学校による自己評価</p>			
評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	いじめを無くし、未解決ゼロにする。	A 61% B 35% C 4% D 0%	・すぐに対応がされている。学校全体で組織を組んで解決に向けて対応している。 ・アンケートの内容について確認し、改善している。 ・学年間で情報共有をし、早期発見、対応をしている。日常の指導の中でいじめ防止について児童に呼びかけ続ける。	学校のいじめ防止組織体制が機能していて、いじめの未然防止と解決の方向への働きかけができていく。教員間で、未解決0とはどういうことであるのかを指標として明確にすることが必要である。	教師は、いじめ防止への感度を高くもち、児童の様子を適切に捉え、その場で正しく指導できなくてはならない。学校組織として情報は常に共有し、徹底的に児童を守り抜く気持ちで、いじめ防止及び解決に全力を尽くす。
	定期的にアンケートを実施して早期発見に努め、学校いじめ対策委員会で組織的な対応をしている。	A 26% B 48% C 22% D 4%	・いじめが起こる要素として、教員の意識に「これ位なら…」というものがある。教員のいじめへの感度をより高くするべきである。 ・防止を第一に、小さいことでも学年で考えるようにする。		
②	いじめを無くし、未解決ゼロにする。	A 65% B 31% C 4% D 0%	・目安箱にあった児童の声を、スクールカウンセラーが聞き取り、解決に至った。 ・児童や保護者のカウンセラーの利用が活発になっている。 ・いじめ防止校内委員会にスクールカウンセラーも参加し、共に対応を協議した。 ・スクールカウンセラーや特別支援教育専門員、専科の先生方と情報を共有し、児童理解に努めている。	カウンセラーや関係機関との連携を密にして、児童理解を深め指導に生かしていくことが望まれる。 ①と同じであるが、いじめ未解決とはどういうことであるのか、指標として明確にするべきである。	児童の問題行動の要因を正しく把握するためにはカウンセラーや巡回相談員などの専門家の情報や助言が有効である。情報を共有し、問題の解決に向けそれらの専門人材を有効活用していく。
	スクールカウンセラー制度や目安箱の設置など、未然防止や早期発見のための取組をする。	A 26% B 48% C 22% D 4%			
③	未解決事項ゼロにする。	A 57% B 43% C 0% D 0%	・児童の成長のために、保護者と連携して指導に当たった。 ・連絡帳や電話で児童のよい点や改善点を伝えている。 ・欠席者には、必ず電話している。不登校の児童へも、毎日連絡をし、保護者と担任と関係を作ることができた。	不登校や問題行動などの改善への努力を認める。しかし、解決に至っていないと判断している教師がいる。それはどういうことなのかを明確にしておくことが必要である。	児童の気になる行動や頑張った行動など、校内で児童に伝えた後、俊敏に保護者へ伝えるようにする。児童が自らがよい方向に変容するように、保護者と情報を共有し対応への協力を仰ぐ。
	日頃より、電話や連絡帳、学校だより等で、家庭との緊密な連携を図っている。	A 26% B 57% C 13% D 4%			
④	いじめを無くし、未解決ゼロにする。	A 65% B 31% C 4% D 0%	・職員夕会での情報共有をより充実させたい。問題の報告だけではなく、問題解決のために必要な改善策を共有していく。 ・LINE問題に関しては、事実確認の難しさを感じた。学期ごとに家庭へのSNSルールづくりの啓発をしていく必要がある。	教師間の情報共有はよくなされており、適切に対応できていると判断する。 ①と同じであるが、いじめ未解決0とはどういうことであるのか、指標として明確にするべきである。①②④が取組指標として同じでよいのか、関係性が曖昧である。	定期的に生活指導夕会や特別支援校内委員会を開く他、いじめ対策防止委員会、不登校対策委員会などの対応協議をする場を適宜設定し、問題行動の早期解決に向けて保護者や関係諸機関も含め、組織的に対応する。
	生活指導夕会などを通じ、管理職・各学年・専科・養護教諭間で、情報の共有が図られている。	A 31% B 43% C 22% D 4%			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかというと当てはまらない D=当てはまらない

評価項目6 学校独自の特色ある教育活動

評価指標	上段: 成果指標	学校による自己評価		校区外部評価委員による評価	次年度に向けた校長の態度表明
	下段: 取組指標	評価	評価の説明	自己評価に対するコメント	
①	保護者アンケートにおいて肯定的な答えを80%以上にする。	A 65% B 31% C 0% D 4%	・「お店番体験」は実施は協力店の減少もあり、今年度は取りやめた。 ・体験学習を多く取り入れている。 ・4年はEnglish Campや金時山登山、ブラインドサッカーなど実施した。 ・体験学習は、児童にとってかけがえのない体験ができると保護者の関心が高い。	教師の努力を認める。本物を体験させる活動が、教科の学習にも生かされている。	今まで実施してきたように、体験を一回限りのイベントとして終えるのではなく、教科指導の中に体験活動を位置付けて実施する。事前、事後学習をしっかりと行う。
	雪国体験「農業体験」「お店番体験」等、様々な体験学習を重視した質の高い授業を展開する。	A 48% B 43% C 0% D 9%			
②	保護者アンケートにおいて肯定的な答えを80%以上にする。	A 87% B 9% C 0% D 4%	・連合音楽会、学芸会で子どもたちの成長が見られた。 ・音楽活動や図工活動に熱心に取り組んでいる。 ・学芸会のアンケートでも高評価だった。 ・短い準備時間でもしっかりと仕上がっている。	日常の教師の努力を認める。日々の学習の成果が表れている。	日常の学習の積み重ねを大切にしながら、様々な児童の活躍の場を設定する。児童一人一人が自分のよさを発揮し、互いのよさを認め合い人間性を育む機会とする。
	音楽活動や造形活動、学芸会・展覧会など、児童の情操を育む活動を実践する。	A 61% B 30% C 0% D 9%			
③	児童アンケートにおいて肯定的な答えを80%以上にする。	A 78% B 18% C 0% D 4%	・児童は楽しみにしている。 ・行事に力を入れており、子ども達は意欲的に学ぼうとしている。 ・実行委員をクラスで決め、責任をもって仕事をした。 ・本物に触れる体験を児童にとって良い学びとするために、計画・実施する教員の責任は大きい。	教師の努力を認める。計画的に実践することにより、児童の満足感や成就感につながっている。	児童が主体的に取り組み、満足感や成就感を得られるように、計画的に準備を進める。
	子どもたちは学校行事や社会体験活動・自然体験活動を楽しみにしている。	A 69% B 22% C 0% D 9%			

A=よく当てはまる B=概ね当てはまる C=どちらかという当てはまらない D=当てはまらない

校区外部評価委員より（その他、お気づきの点などがありましたら自由にお書きください。）

今年度、各教室にICT環境が整い、それを活用して教師の授業力は向上している。しかし、さらに活用するために、教師の研修計画が必要であると考えられる。教師による活用力の差をなくし、どの学級でも同じように活用されることが望ましい。
教師が未解決と感じている生活指導上の問題に対して、学校として何を根拠に解決とするのかを明確に認識できるように改善を望む。

